

ヒノキカワモグリガの発生活長調査 (II)

— 標高の異なる2地点での発生状況 —

熊本県林業研究指導所 宮島 淳二

1. はじめに

ヒノキカワモグリガ (以下カワモグリガという) 成虫の発生活長については、昭和63年度から調査を開始し、その結果はすでに報告したところである¹⁾。今年度は標高の異なる2地点における成虫の発生活長について調査を行なったので、その概要を報告する。

2. 調査地と調査方法

(1) 調査地

調査地は、昭和63年度と同一林分 (標高620mの阿蘇郡南小国町のアヤスギ、ヤブクグリスギ16年生混植人工林) および、山鹿市の標高78mアヤスギ11年生人工林の2か所とした。

(2) 調査の方法

平成元年5月から8月にかけて、上記調査地において夜間 (19:30~23:30) 誘蛾灯を点灯し飛来するカワモグリガ成虫を捕獲しその頭数を調査した。なお成虫の捕獲にあたっては、次の2種類のトラップを用い同一林分内で、互いの光の影響を受けない地点で並行して実施した。

① 前年度と同様に乾式ライトトラップ (光源は、ナショナル製FL6BA-37K, 6w, 2本) を使用したものの。

② 上記同様の光源を、林内の地上ほぼ1.5mの高さにつるし、その背面に2.0m×1.8mの白色寒冷紗を張ったもの。

3. 結果と考察

(1) 成虫の発生状況

2調査地における発生状況は、図-1に示すとおりであった。

山鹿調査地においては、6月1日が初発で6月3日には調査期間中最高の124頭を捕獲した。その後一度落

ち込んだものの6月9日には再び93頭まで増加し、その後は徐々に減少して7月3日に終息した。

南小国調査地においては、6月13日に初発で6月24日には調査期間中最高の27頭を捕獲した。その後多少増減を繰り返しながら徐々に減少し、7月18日に終息した。

以上の結果から両調査地の成虫発生状況を比較すると、成虫の発生期間はいずれもほぼ40日間であり、発生期のズレではほぼ2週間、ピーク時で3週間であったと考えられる。

(2) 成虫飛来の経時変化

調査全期間中のカワモグリガ成虫飛来頭数の経時変化は、図-2に示すとおりであった。

山鹿調査地においては20:30~21:00の間に最も多く、ピークは一つであった。

これに対し、南小国調査地においては21:00~21:30, 22:30~23:00の、二つのピークがあった。

(3) トラップの種類別捕獲数

両調査地におけるトラップの種類別のカワモグリガ成虫捕獲数の累積曲線は、図-3に示すとおりであった。このことからいずれの調査地においても2つの捕獲方法ともほぼ似通った形であることがわかる。

(4) 2年間の成虫発生状況

南小国調査地における昭和63年および本年のカワモグリガ成虫の状況を比較すると図-4に示すとおりであった。

初発は昨年より今年の方が4日早く、ピークも昨年より今年の方が10日早く、今年のピークの outf は昨年ほど明瞭ではなかった。終息期は昨年より今年の方が10日遅かった。

従って成虫発生の期間は、昨年より今年の方がほぼ2週間長かったことになる。

Junji MIYAJIMA (For. Res. and Instruc. Stn. of Kumamoto Pref., Kumamoto 860)

Seasonal occurrence of *Epinotia granitalis* Butler in Kumamoto prefecture (II) A research of occurrence at two different-altitude points

4. おわりに

今回の調査で標高の異なる2地点における成虫の発生状況、同一林分における2か年間の成虫の発生状況を比較することができた。

その結果、標高差が540mある2調査地の成虫発生は初発ではほぼ14日、ピークで20日のズレがあるが、発生期間はいずれもほぼ40日で差がないことがわかった。

また、2か年間の発生状況については、初発ではほぼ4日今年の方が早かったが、極端な違いはないようであった。

前回の報告の中で成虫発生の指標となりそうな昆虫としてナガチャコガネについて触れたが、今回2調査地で「キマエクロホソバ」というヒトリガ科の昆虫がカワモグリガ成虫発生のピークの10日程前から捕獲され始めた。

今後はさらに、2か所程度調査地を増やし標高の違いによる発生消長を確認するとともに、成虫発生のカギとなる因子を解明する必要がある。

引用文献

- (1) 宮島 淳二：日林九支研論，42，175～176，1989

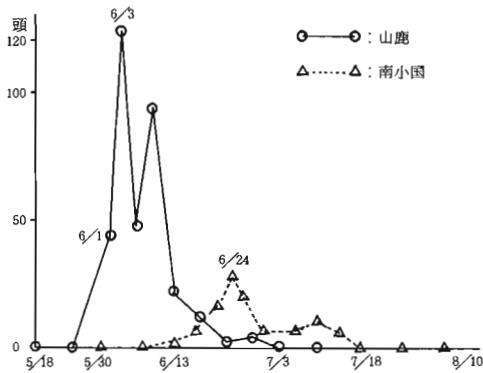


図-1 成虫の発生状況

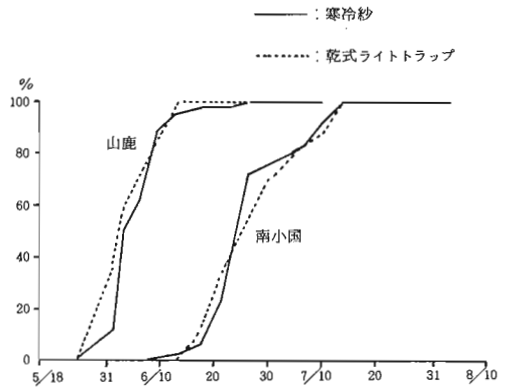


図-3 2つの方法による捕獲数変化の比較

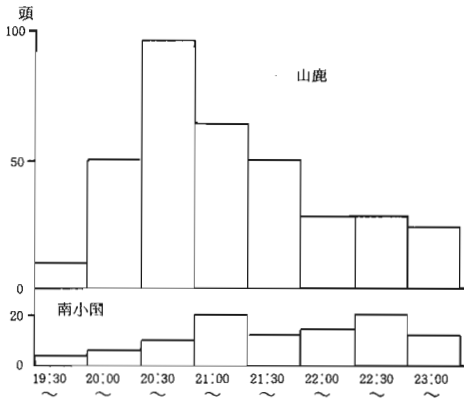


図-2 成虫飛来数の経時変化

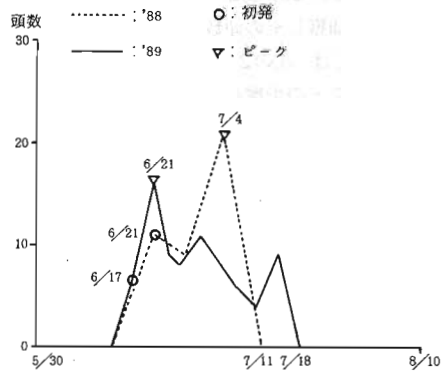


図-4 2か年間の成虫発生状況の比較